

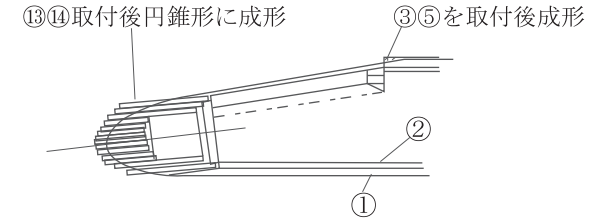
Y. Kazama (FPAC)
 中空胴滑空機 K-9804型
 (全幅244mm×全長239mm 重量10g)

特徴

1. 飛行姿が実機同様優美である。
2. 胴体は、卵殻構造であるため強度が大であり、垂直落下しても胴体の破損は皆無である。
3. 主翼取付角が0°であるため垂直上昇が可能である。
4. 調整が上手くいくと視界没を心配するほどよく飛ぶ。

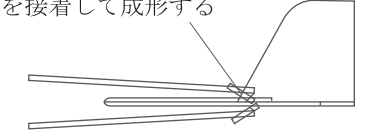
製作上の注意

1. 胴体の紙はAGケントよりやや薄めの弾力のある紙を利用する。主翼・尾翼の紙はAGケント紙又は同等品がよい。
2. 胴体は図面寸法より2~3mm大きめに切り取り、曲面は6~8mmの丸棒等を使用し徐々に曲げ、手を離しても接合部が重なるまで左右対称に曲面を作る。その後図面寸法に切る。(折れ、しわ等が生じた場合は作り直す。)
3. 胴体の付属部品②~⑧、⑬~⑯は、出来上がった胴体本体の曲面に合わせる。
4. 重心位置の調整は、仮組立をして⑬の幅の大小で調整する。生地完成後塗装すると重心位置が後退するので、1.5mm~3mm程度前で設定する。(塗装方式で変わる)



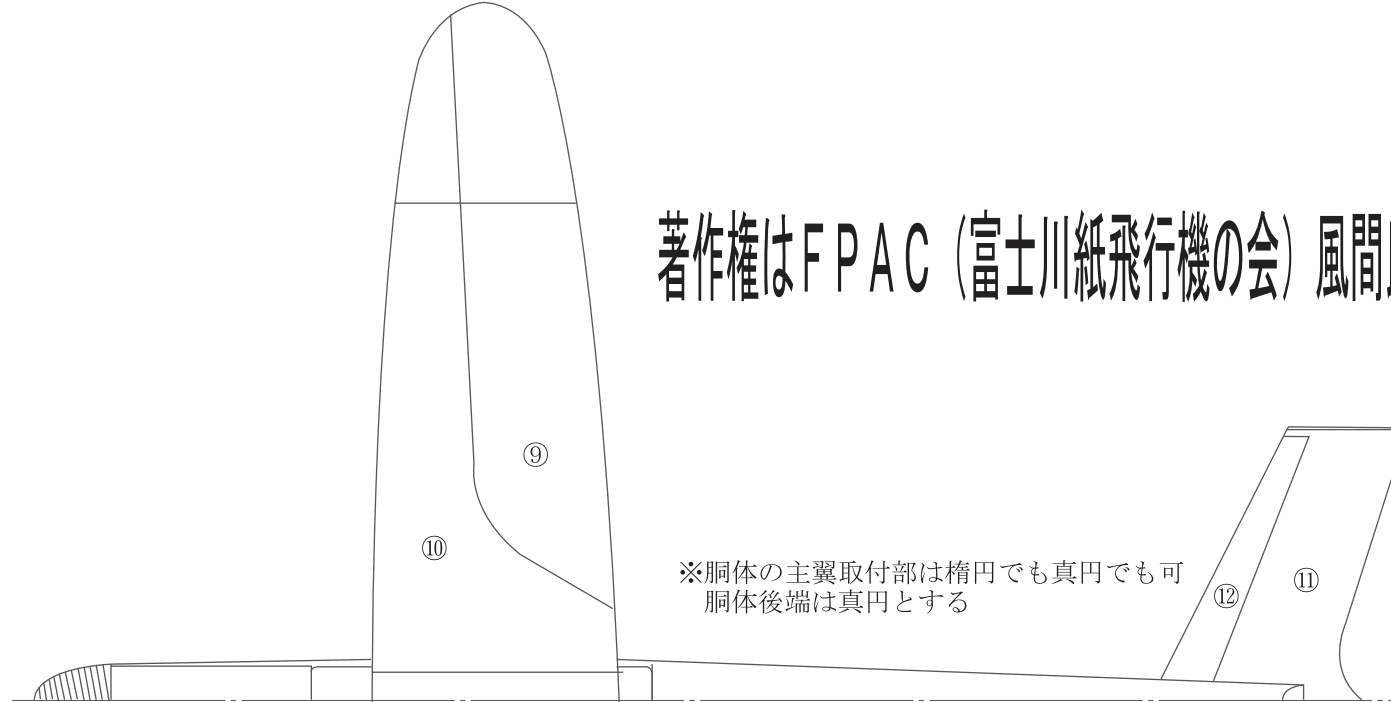
胴体先端部断面

水平尾翼取付後胴体後部を60°削り
 ⑮⑯を接着して成形する

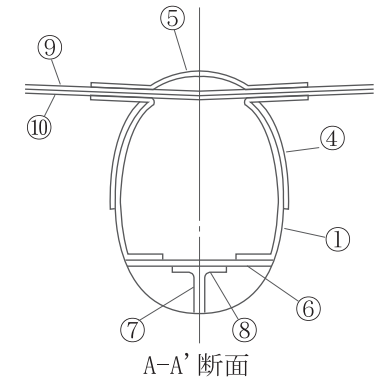


胴体後部断面図

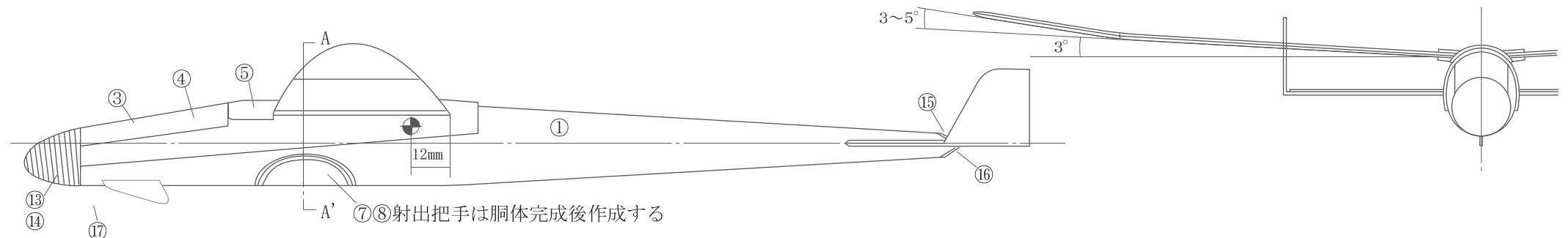
著作権はFPAC (富士川紙飛行機の会) 風間氏に帰属する。



※胴体の主翼取付部は楕円でも真円でも可
 胴体後端は真円とする



A-A' 断面



⑦⑧射出把手は胴体完成後作成する